

職場体験学習

名和中学校



小さな赤ちゃんの愛らしい姿に、にっこり笑顔がうかびます(昨年の「わくわく名和」から)

今年も、暑い夏がやってききました。

名和中学校では、毎年夏休みに、進路学習の一環として、2年生が「職場体験学習」(通称「わくわく名和」)を実施しています。

今年も、町内25の事業所の協力を得て、80人の2年生が、8月17日から27日までの間に実施をします。保育所で小さな子どもたちの世話をしたり、福祉施設でお年寄りの話し相手になったり、飲食店でうどん作りをしたり、学校や家庭とはまた違った、「職場」で働くことを、生徒たちはとっ

ておこなうのですが、「子どもたちの人生の進路を決める職業選択に、保護者がもっと積極的にかかわることが望ましい」とする学校の考えに、PTAが歩調をあわせ、2000年からPTAの事業として取り組んでいます。PTAでは、組織的に「職場体験学習事業委員会」(木口和志委員長)を設置し、町内の企業や福祉施設などに出向き、実習受け入れの協力依頼等をおこなっています。商工会からも大きくバックアップしていただき、「地域・学校・家庭」の三者がしっかりと連携しあいながら、理想的な形で推進にあたっています。



発掘現場から...炎天下の作業に、働くことの大変さとおもしろさを実感した生徒たち(昨年の「わくわく名和」から)

「波が少し高いな」「大丈夫かなあ?」その心配のとおり海は、時々白い波頭を見せました。7月5日、午前10時の海は、風が強く、クルージングの実施の態度決定について協議されましたが、予定通りおこなうことになりました。

私は小さい船しか乗ったことがないので、大きい船を見てどきどきしました。私の乗った船は波に乗り上げ、また下りて、まるでジェットコースターみたいでした。



ワクワク...、ドキドキ...。期待に胸を膨らませて船に乗り込みます

識を深め、風や天候によって左右される漁業の難しさにもふれることができました。定置網のおかげでたくさん水揚げがあることや、いろんな種類の魚が漁港に揚がること、御来屋漁港での高級魚は鯖であることも学びました。

日本一海に近い学校の
フィッシングボートクルージング in2004

光徳小学校



青い海に白い波をたてながら、子どもたちを乗せたボートはまっすぐ沖へむかっていきます

光徳小学校の沖合いに着いたら、茶色のウキがたくさん浮かんでいました。定置網の場所です。「うわあ、これが鳥取県一大きな定置網なんだあ」と言いました。山のほうを見ると、私たちの光徳小学校があまりにも小さく、まるで手に乗りそうなくらいに見えました。

港に帰ると、校長先生が海に浮かんでおられました。私たちの着けている救命胴衣が本当に安全で、命を守ってくれるのかを実際にやってみせてくださいました。大きな体の校長先生が、案に浮いておられました。

船長さんや、乗組員のみなさん、組合長さんや森田さんのおかげで、いい体験ができました。ありがとうございました。また乗ってみたいです。

名和つな
学校から